

昭和三十一年十月二十四日招集
第二面市議會臨時會之議錄

館山市議会第二回臨時会会議録

昭和三十一年十月招集

一十月二十四日（土曜日）

一現在議員三十五名でその氏名次の如し

一番 吉田勇治郎 二番 鈴木正一郎

三番 小柴 孝 四番 館石伝蔵

五番 田中祿郎 六番 秋山六三郎

七番 田村源治郎 八番 望月照正

九番 安西益男 一〇番 辻田実

一一番 石井 正 一二番 黒川佐太郎

一三番 菊井敏博 一四番 志村信作

一五番 小沢恵太郎 一六番 関 武夫

一七番 西村真次 一八番 藤田好治

一九番 保科忠夫 二〇番 江田徳太郎

二二番 君塚喜三 二三番 中村省吾

二四番 島野茂樹郎 二五番 荻生田七郎

二六番 鈴木孝 二七番 鳴田繁

二八番 山田教字 二九番 鈴木市蔵

三〇番 安藤竜吉 三一番 安沢徳順

三二番 三沢節 三三番 高橋文治

三四番 山本昇 三五番 松本藤太郎

三大番 山口康

一 議事日程

日程第一 議案第九十号 一部事務組合の設立について

一 法第百三十一條による出席説明員

市 長 本間 讓

助 役 小出 武男

衛生施設課長 吉田 耕一

一本議会の事務局長 事務局長補佐 書記及び取員

事務局長 高梨育一

事務局長補佐 太田博雄

書記 兵藤恭一

取員 錦織睦子

二出席議員 三十三名

二欠席議員 二名

九番 安西益男 二七番 嶋田 繁

午前十時十二分 開会

議長(黒川佐太郎君)本日の出席議員数三十三名

これよりカニ目市議会臨時会を開会いたします。

議案説明のため本向市長、小出助役、吉田課長の出席を求めましたので御報告いたします。会議録署名員の決定を行ないます。本臨時会の会議録署名員に一番議員石井正君、二番議員萩生田七郎君、両君を指名いたします。これに御異議ございませんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)御異議なしと認めます。よって決定いたしました。会期の決定を行ないます。本臨時会の会期につき議会議事協会の意見は本日一日とすることであり、おはかりいたします。本会期を本日一日と定めますと、御異議ありませんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)御異議なしと認めます。よって会期は一日と決

定りました。本日議事はお手元配付の日程表により行
なります。これより市長の説明を求めます。

(市長本間譲君登壇)

市長(本間譲君)本日ミに館山市オニ回臨時市会を招集したしま
して、緊急御審議をわすらわします。議案はかねてより、

懸念案でありました。館山・三茅・富浦・三市町村による水道
設置について、設置協議会におき協議の結果結論を得

ましたので、ミに地方自治法オニ百八条オ一項の規定に
よりまして館山市・富浦町及び三茅村と上水道を共同経営

するため規約を定めまして一部事務組合を設立しよう
とするものであります。詳細につきましては関係課長を

して説明させます。ごくごく詳しく御審議のほどをお願ひ申

上あげます。次オでございす。

議長(里川在本部着し)議案オ九十号を上程いたします。
書記朗読

議案オ九十号

一部事務組合の設立について

衛生施設課長(吉田耕一君)議案オ九十号の説明に進まず前へ
御報告申し上げたいと存じます。

今回提案いたしました上水道計画としようという面について
しるは、過去におきまして昭和三五年の二月にこの地域におきまして
房州水道株式会社が地元の要望にこたえて施行したという
ような意図のもとに水道法の六条によりまして市の同意
が必要となるので、市の議会に付しまして同意の願ひが
あつたわけでございます。従しまして本市の議会に付して
おきますしるは、三五年二月二八日の議会におきまして、同意
の議決をされたわけでございます。しかしながら、
その後のところの状況等によりまして、これが免施が中止
されたといふような点について申し出がございました。
市長の方といたしまして、これを取り上げ中止の承認をい

たしたわけを申し上げます。かような過去におきまして、房州水道株式会社の上水道拡張工事につきましては、その同意は解消したというふうになつたわけを申し上げますので、御報告申し上げます。

なおもう一案の議案につきましては、三市町村の協議といたうこととを申し上げます。そして、過般十七日に富浦町・三ツ日・三芳村両町村の議会におきまして、全部同意されたというふうな文書がまだ届きませんが、電話の連絡もございまして、この御報告申し上げます。

九十号につきまして御説明申し上げたいと存じます。まず三市町村の規約を申し上げますが、第一章の総則のうち、第一章につきまゝ、これは、この規約を作ります、段階といたしまして、この規約を作らなうございます。二百八十四条を基礎といたしまして、この規約を作成したのでござります。第一章は従来、この組合の名称を規定した

わけでござりまする。館山市・富津町及び三芳井上水道組合という
ふうになつてまいりかように考へるわけをござりまする。

二条につきます。これは組合を組織する農公女団体というふとで
ござりまする。館山市・富津町及び三芳井上という組織体とする
つもりでござりまする。

三条でござりまするが、これは組合の共同処理する事項と目的
を規定したわけをござりまする。次に掲げる三つの事項を
共同処理するといふようなことを目的として規定したわけ
をござりまする。

四条組合の事務所をござりまする。あつた三市町村協議の
結果、このように組合を館山市に果の市役所内に置くといふ
うに考へたわけをござりまする。組合の議決をござりまする。五条
にかきます。組合の議決の議員の定数にござりまする。これを二千人
としたします。館山市十人・富津町五人・三芳井五人という

いうにたしめて、定数を二人としたい。このように考える
次オでござります

三条の議員の選挙でござりますが関係の三市町村におき
まして、当該議員の中からそれを選挙していただく
くという者をもつて議員としたいというふうに考える
わけでございます。

従来より、三条の任期でござりまするが任期はその属する
市町村の議会議員の任期としたたい。なお議員中の欠
員を生じたときにつぎましてはすみやかに補充議員の選挙
も当該議会におこなうべくしたい。三項が補充
欠議員の任期で規定したわけをござりまする。前任者の残任
期間というふうに規定したと考えるわけをあげます。
八条の議会におきまして、議長・副議長を置くということ
をござりまするして、議長及び副議長は組合議会におき

していくとしようふうに規定したわけでもありません

三章の組合の執行機関でございすか組織におきまして先
条で組合に管理者、助役及び収入役というものを置くという規定
を設けたわけでもございす。十条もさうした者の選任を規定した
し。そして管理若しくは館山市市長の取に与る者をもつて充て
る。なお助役・収入役にございす。これは管理者が組合議会の同意を
得まして選任をなしたい。このように考へるわけでもございす。
三項もつぎまして選任助役・収入役の任期を三年とするとい
ふに考へるわけでもございす。

十一條の監査委員の規定でもございす。この組合におきまして
監査委員を二項につぎまして館山市の監査委員の取にある者
を充てたい。このように考へるわけでもございす。

補助取員の十二條もございす。組合の吏員その他取員を
置きまして、管理者が任命をします。従つて吏員その他の

他の取戻り定数は議会の議決で定めていただくというふう
に考えるわけでございます。

四章の組合の経費でございます。この支弁方法を十三条で規
定したわけでございます。組合に於けます経費は使用料
公債財産より主する収入その他の収入をもつて支弁を
したしたい。しかしながらお不足のときにつきましては

組合の議会の議決によりまして関係市町村に分賦賦を
してお願いをしたたい。このように考えるわけでございます。
二項におきましてその分賦割合につきまして規定したわけ
でございます。館山市が十分七、富津町十分二、三茅村十
分の一というふうに規定したたいと考えるわけでございます。
ます。附則につきましては、この決議をただきまして

書類申請をいたしまして知事の許可がございました日か
ら施行に移りたい。このように考える次第でございます。

以上でございます

一八番(西村真次君)一つだけお伺いしたいと思ひます。不足額の分賦割合、これは何を基準にして定められたものでございませうか。衛生施設課長(吉田耕一君)分賦割合の算出の基礎でございしますが、給水人口比率、それに大口消費というふうなものも加味してしまつて算出をいたしました。その割合が十分〇七・十分〇二・十分〇九というふうな考へますし、なお御参考までに別々印刷の上水道の事業計画の中に工事費及び予定財源の中の一応分賦の割合を算出してしまつた率をどうことでございませうかと、そこに金額的な率と合わせまして、ここに一応欄を作つておいた次でございませうかと御参考に供したいと存じます。

一〇番(辻田実君)最初にいただいたの御説明の中に、おきまして水道法第十九条に基きまして、昭和二十五年三月二十八日に

議決になった船形地域におきますところの水道権の問題につき民間事業の委託託につき決議されたあるということかございまして、この条に基くところの市町村の同意につき申し出により、実施中止の受託諾をしたというところでござりますので、この点につき受諾するに際して水道法に基きまして、~~水道法~~ いろいろ問題があるわけがございますけれども、それらの問題につきはどの程度触れられ、どの程度具体的な問題につき解消項目が取りかかされてあるかどうかという点につきお伺いしたいと思うわけですが、たくさん聞きたいことがございますか、それをやるとき何かかりますので、そういう中止に并するところうなまざる問題の事項があると思いますから、それを具体的に御答弁いただきたい。不足している点につき再度御質問したいと思うわけがございますので、お願いいたします。

衛生施設課長（吉田耕一君）お答え申し上げます。確かにいろいろな過
程もあると存ずるわけですが、私どももいろいろお伺い
したわけですが、認可も会社を受けます段階と一々
この各条の市町村の同意議決が必要であるという法の根
拠に基づきまして添付書類として本市に出されたわけですが、
まず、~~それ~~に従ってそれを二十五年の二月に本義令が
同意議決したわけですが、それを会社に通知した
わけですが、ありますが過去におきまして諸般の関係を関係官
庁への認可申請がまだ出ておらなかったという段階でござい
ますので、上との関係あるいはまた権利としような面もこう
した会社のリワイする申し入れによりまして解消するといふ
ふうな~~案~~案も考えましてそれ以上詳しく調査はいたしてご
ざいませんでした。

一、番（辻田実君）水道の設置について、御案内のように地

才自治法のオニ条オニ項に基き市町村は上水道の事業
 を実施しなければならぬという条文が明記されてあるわけ
 でございましてそれを受けつぎまして水道法の六条で認可規
 定がある。その後七条の認可項目八条の認可基準という中
 におきまして給水地域の設定というものが明らかなにされてある
 わけでございまして従しまして市町村がその水道事業を実
 施しない場合におきましては六条の二項にございますように民間
 事業に付して議会の承認を得て委託することかできるとい
 う条項があるわけでございます。それに基づきまして
 当然私は実施したくないにかかわらず房州水道株式会社
 社に付して館山市全域におきますところの地域が私は給水
 範囲に入つてあるうちはなかとこのことが解決されるわけ
 でございまして。この問題につきましても私は細かいことになり
 ますから五五九条の三九号に基くところの認可また認可

受けた経過処置法というのがあるのではないかと
も、これに基きますものを昭和三十二年ですか、九号に付する
ところの法律は三十二年に施行されまして水道法の条例に
基きますようにしてそのときにすでにあった既成事実の
ものをもう振りかえることができないという経過処置が出
ております。市議決条項というものは旧法でございませ
う新法の給水地域は房州水道の中が含まれたものではなかと
いうふうに解釈するわけではございますけれども、それが名ま
れてあるということにその解釈の点についてお伺いたい。
旧法から新法になつて旧法時代に議決した給水地域の範囲
が条項になつてそれが当然、房州水道に井戸が船形地域も
包含されるというふうに解釈されてあるのですけれども
その点について先ほどの課長の説明でございしますと、何か
同意を求めただけで終り、厚生省の認可を受けられない

のだから、その問題下というふうには解決されてお
りたが、法的にはどうふうになつてないかと判断しますか
その点も明確に御答弁願ひたいと思つておられます

衛生施設課長(吉岡耕一君) 御答へ申し上げます、御質問の内容が今
回の船形那古地域も房州水道の区域に範囲に入つてゐると
いふうな御質問も、どうなんでしょう、関係だと思ひます
が水道の給水区域というふうなものに、つきまゝには那古船
形地域は認可の区域に入つておりません、従つて二十五
年でございしますが、市が同意を得まして、区域の認可事業
をやると、認可申請を取つてやるというふうになつたのが
二十五年の段階でございまして、どうしてか、そのような面も、更
施設の段階までいかないと、辞退になつたという段階でござい
ます、会社から辞退があつた場合には関係はない、たまたま
これが同意が添付されまして、関係官庁に参りまして認可が
あつた

場合には中止とか廃止というようには部面につきましても
改めようという過程の手続を経ずして関係官庁の廃止
の許可があつて初めから区域が解消されるというところに
なっております。今日はその段階がまだ経てなかつた
というふうに考えます。区域の範囲には入つておらないう
ふうなことを考えております。

一番（辻田実君）ただいま御説明はごもつともというふうに承
わりましたわけでございます。けれどもそれは法律の本文の方でし
ますとそういう解釈もされるのではなからと思ひますが、先ほど申
しましたのは新法附則の第三条、第四条、第五条に基きまして
旧法と現法の関係、附則の第四条につきましても、は事實行なわ
れてゐるものにつくは新法をつくつてそれを包含して行く
というところが明記されてあるわけでございます。従ひま
ま給水地域というものは館山市地域全体というふうには解

釈できるのですけれどもその釈の解釈につきましては、まず
 第一案につき再度その釈がそうだろうという法解釈
 のありとでもって間違ひを以てたというふうになると問題
 も含んでくるので法解釈の調査を必要とする。その釈につき再
 度お伺いしたい。もう一つこの釈につき県知事や委託事
 業になつておりますので、県知事並びに厚生知事大臣に
 内合わせ、水道組合の設立準備会というものがあつたん
 ですか。この釈につき調査していただくか、どうかお伺いしたい
 と思います。

衛生施設課長(吉田耕一君) まずお伺いの質問の案、厚生省への調査し
 たかという案でございますが、全然出ておりませんので、厚
 生省に封しましては調査していません。なお県に封して、そ
 ういう実情につきましては報告もし、県のその範囲を經
 りまかして、このことにつきましても話し合つておいてあり

ます。次に区域の関係でございますが、房州水道株式会社
のいわゆる企業水道、あるいは市の水道法につきましては
実施する場合の許可の申請につきまして必ず区域を
定めて計画を立てて認可を受け、わけでございます。
従って房州水道株式会社の現在やっております認可
可を受け、あるいはあります。区域は那古船形地域は入
っておりませんので、はつきり御答弁申上げたいと思つた
ので、従つて五十年に房州水道がその区域を拡張した
まゝ、水道敷設工事をやりたいということにつきまして
一、市の同意をお願いしたわけでございます。さうい
う認可を取り、新しい地域を拡張して行くという
ことで、この条の認可を得たということ、私も法を解釈
しておりますので、さういふ認可の申請が果して出てお
るか、ないかという点につきまして、会社あるいは県等につ

会社が充足してあつて給水してある。なお会社が營業の中
に給水範圍に入つてゐるものはすぐに認可を受けたも
のと同じものとみなす。という法解釈がある。

従つて新法の充足は施行が三十二年といふことに
なつてゐるから三十二年以前にすでに議決して、船形
地域は市が五条に基きましてすぐに房サ水道の
給水地域内といふことが厚生大臣の認可を受けてゐな
いけれども、すでに市で認可を与えてゐる。さういふ
問題に付くは、今まで厚生大臣の認可を受け、あつ
たとしても、この時点に付く給水区域内に現実に入つ
てゐるものは新法でそのまま適用して、いふといふ経過
処置が五条にある。この経過処置が今の課長の答弁
でいくと、あつてゐないから、この案をはつきりないと次
くるところが、八条四項に基きます。ところの設置

に伴う認可につきまゝ重複するということでは
 発生すべきないという事態が起きてくる。できない事態
 が起きる。それにまつわるいろいろな経済的な諸問題
 がいくつが発生してくる危険があるので、この問題を五
 条の規定に基きどう解釈したか、この実をはつきり
 法的に明らかにしておかないと、新たに問題が残る。
 この実だけを聞いているわけではございません。この実を
 もう一度お願いしたわけではございません。

衛生施設課長(吉田耕一君) 法解釈の相違もあるかと存じ
 ますが、これは新法からできまゝ旧法をいわけゆる経過
 処置として取ったわけではございません。さうして例え
 ば旧法と新法にまたがる区域が変動してあるかどうか
 といふことがまずオート上げられると思います。

房州水道につきまゝは、新法と旧法と区域はつきま

しては、変更はございません。認可地域につきましては、従いまし、この井象にはならないと考えるわけでございます。もし正域の変動がある場合にはこの経過処置によつて救われるのだ。しかしながら古い方におきましてもこれだけの正域、新しいものにつきましても同じものがあるというふうなところがあります。この経過処置には別に考える必要はないというふうには私考之に次をおこさいます。

従つて旧法と申しますか、二十五年当時あるいは現在につきましてもあつた正域につきましても、それは形におきましてもまだ認可全然おろしてありませんし、申請も出ておらなかつたという実情でございますので五条の適用にはならないというふうには私考之てある次第でございます。

（辻田実君）今の案につきましても課長の見解ということであつてありまして私の見解とこれらにつきましても自治省の方

にても解釈をあおなければさういふふうと思う。

両極に解釈が分かれておりますので暫定処置・経過
処置によりまして給水区域に当然含まれておるという

ふうの解釈であるわけでございます。課長の答弁で
すと文書通りでないとは経過処置だから手続きが済んで
いないからその面は入らないやだという答弁でござい
ますから、さう異にござるは一応打ち切ります。

これは十分解釈して給水区域を明確にしてもらいた
いというふうに思うわけです。

続きます。二三件^{質問}伺うておきたい事項があるわけござ
います。と申しますのは、三十五条に房州水道というものが
ござります。二項につきまして市の同意を経るおまわけを

ございますから厚生大臣の認可如何にかかわらず三十五
条の一項に基きます。その工事は完了してない、附近

につけての事業の認可を取り消すことかである。水道法の条文によつて処理していかねければならぬ。厚生大臣のところまで許可かない。先ほどは厚生大臣は許可していいけれども許可しても同じだというふうに解釈しておられますが、その問題はまたさうおしくもこの議會におきます。水道法の三十五条におつてこの法律を次の項にありますところの二項は厚生大臣の所屬事項でございますから二項は取り消してもオミ項におつてやはり厚生大臣にかかりまして書面におつての弁明の機会を与えなければならぬ。さうして弁明を書面でもつてする。その弁明もやはり六条の二項に基づいて決議機関である市議會か水道会社の理事でできなかつたという三十五条の一項に基づいて文書を出さなければならぬということになつておりますので、その場合當然議會におつて、その理由を承認して本来ならば厚生大臣のところに出すわけ

不都合がありますけれども出ないという点とであるから
議会だけでもそれはやらなければならぬのではないかと
いうふうに思うわけでございますけれども三十五条に
するところの手続きについてはいかように判断されておるか
その点も御説明願いたいと思うわけでございます。

衛生施設課長(吉田耕一君)　いろいろ私どもも手落ちがございますが
ここにございます文書とかいう面につきましては手落ちが
あつたと考えるわけでございますが、会社の方といたしまして
は市長宛に参りました。上水道事業計画の中止届という
ようなものにつきましては文書的なものによつて私ども処
理したというふうには解釈してまいりましたが、それとのお合
せまい、こういうたもつを正式な三項によつてやるべきだ
ったというふうに私ども考えるわけでございますが、ただい
まそういう面々の報告に欠けたという点につきましても、

私の手落ちでございまして、おわび申し上げたいと存する
わけでございますが、いろいろさうした平明の詳しい面
につきましては書類によりましてはつきりとまだ出て参り
ませんが、この議決をお願いして議決されまして拡張工事の
計画につきましてはいろいろその後の諸般の事情によりまして
中止したからというようにございまして、私どもは
もほそれを正当な文書と考へまして一応処理した
わけをございまして、以上のような次第でございまして、文
書が参つておつたということにございまして、三項につきま
すの正しきの日時・場所等の定め、こうした文書もこうし
た機会に皆さんに提示して御承認を得るべきであつたかと
考へますが、その点につきましては、私おわび申し上げたい
と存する次第でございします。

議長

(黒川佐太郎君) 暫時休憩いたします。

休憩

午前十時五十分 休憩

再開

午前十時十五分

議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

議案才九十号に付する質疑を続行いたします。

一。番(辻田実君)先ほど私はいろいろ質問伺したわけでございますけれども、私は一番心配いたしますのは給水区域の指定の解釈でございますけれどもそれに伴いまして四十二条の一項の給水範囲というものは必要な権利ということでもって、もし地方公共団体が新しく事業の設定区域にあるところの水道の給水区域を給水する場合においてはそれを購買し上げなければならぬという法会有るわけでございます。従いまして本来ならばこの買上げ価格等が提示されないと今度充足する水道組合が膨大な負債をしようとするスタートしなければならぬという事態が起さ

かねないものでありまして、その真も心配してゐるわけをござい
ます。その真についてこの心配が甲二条の第一項の水道事業
を経営するために必要な権利を買収することができ、この項
が絶対異議ないというこのためには給水区域が完全に放
棄されなければならぬということでございますので、この真
について私はもっと具体的に答弁していただきたい。従いま
して、ここで当局の方から次のような答弁が得られるなら
ば、私の質問事項については満たされるわけをございま
して、その真について用意がございまして、御答弁願ひ
たいと思います。すなわち先ほど課長が御説明されました
ところの房州水道の方から実施中止の申し入れがあつた
ということでございますので、その実施申し出がどういう形
で正式文書としてなされてゐるかなされてゐたら、その
ものを公開してもうして、そのことが正式にその文書によつ

昭和二十五年一月二十五日ですが、市議会で決議された給水地の拡張の議決事項がそれによつて消滅したのだという裏付けがなされれば、私に心配して貰つた事に於ては、解消するわけでございます。その裏に於て、御明細な御答弁をいたしたいと思います。かように思うわけです。

衛生施設課長(吉田耕二君) 最初に房州水道かうの中止の書面につきまして朗読させていただきます。昭和三十九年五月五日館山市長本間謙殿 館山市館山一五三八番地、房州水道株式会社代表取締役本間謙上水道拡張工事計画の中止届出弊社が那古船形地区に上水道拡張工事計画いたしました。水道法第六条による昭和二十五年一月十八日付をもつて市議会に承認をお願いいたしましたところ、昭和二十五年二月二十八日市議会において決議、御同意を得まし

たが、その後諸般の状況によりこれを中止してまいるので
届出いたします。以上でございます。

それと区域というようは関係でございますが、水道の区域
というようは面につきまゝは法によりまゝ認可を取り
ますときに認可設計というものにつきまゝ一町の区
域等も明示添付されるわけでございます。その区域によ
りまゝ、関係の個人あるいは企業者等によります。水道業
務を行なう場合には関係の市町村の同意議決を添付
して申請するわけでございます。従いまゝそうしな
ようなものを添付して認可になつて初めて区域も
認可されるわけでございます。今実際にやっております
房井水道につきまゝの区域でございますが、細かい実等
につきまゝは書類がございませんからわかりませんが、北
条と館山というのが区域になつてゐるわけでございますが、そ

のうち旧軍の水道の施設の給水区域というものがござい
 いました宮城、笠名、大賀でございしますが、あそこを
 中心としたしました部面がはぶかれてあるわけをござい
 まして、その他の旧北条館山というものが一応房州水道
 の認可区域になつてゐるというふうに向てあるわけ
 をございまして、今回のやうな地域については区域の認
 可もなく何らの手續も取らなかつたという
 こととございしますので、私どもこの届出は当然市長にお
 いてこれも承認した以上撤廃されたというふうな考え
 方、次の段階の一部事務組合という議案を上程した
 次でございします。

一。番（辻田実君）了解したのであります。従いまして自治法に基
 づきまして二百人十田条に基き、これが組合が設立されますと
 一切の権限というものが、議令並びに市の執行部から

離れましてすべて組合に移管されることが明記されて
あるわけをございます。従いまして私は今の案につい
て課長の答弁を十分だと思ます。しかしこの種の問題
については非常に大きな問題が残されて、先ほども衆解
釈が相違点も多々あるわけをございます。従いま
して本案に并する。質問を拜ちのりますけれども、
組合設立以前につくう申し上げまいにようにな案に
つく。経過処置等によつて給水区域の問題等につく
まだ支障障があるという場合には組合の糾結成り
前にもう一度議会を用いてそれらの面につく調
整というんですか、それをしてもらいたい。

給水区域になりますと当然、四十二条で経営する権
利としての確利金を市が払わなければならぬという
事態が起きます。これは實際そういう事態が生じて

予算の面でもよく削るということも非常に問題がある
かと思ひますので、その前にそういう問題が生じた
た場合に再度議会等にはかゝってもらうかどうか

それによつてはなおこの問題につゞき継続して、私の方
は納得していくまで質疑しないといけないうで、そういう
意思があるかどうか、もう一つはいいすういことと申し
分けないうでございしますが、いわゆるしたくないと思ひ
ます。

地方自治法の百四十二条に地方公共団体で長の兼取禁止
条項があるわけをございまして、房州水道の申し出とい
うのが市長さんの兼取条項になつた形になつてありま
すが、これらにつゞきこういうことは明らかに公益事業
をございしますし、非常にこれらも問題が起きて困ると
思ひますので、この案につゞきは自治法の精神にかえつ

て問題にならないうちに手際よく処理していただくようにお願いしたい。以上二葉を質問いたしました打ち切りたいと思います。衛生施設課長(吉田耕一君)最初の葉につきまゝお答え申し上げます。確かにそうした葉が十分考えられるというふうに私も存するわけがございます。一応そうした。なお組合のいろいろな収入財源を見ましても、公共事業的なものでございます。いろいろときとて不足を生ずるゆといううのが場面もあると存するわけがございます。組合、議会で相談をしまして、なお分賦する段階までにはこうした議会の皆さま方御相談等も十分した上で決定して参りたい。このように考えております。

二五番(萩生田七郎君)組合の議員の抹定定数と申しますが、二十組合人の内訳が一〇・五・五人これは円満なる事業の遂行運営すべき面からいってはやむを得ないと思ひます。た

だ私考えますうに給工費三億千六百万円という膨大な金か投せられしかもそれが借金でもって工事が施行されるという計画である以上決してこれは最初から伸びる必要もないと思ううですけれども赤字が出るという杞憂があるわけをございます。その場合にはこの規定に基づきまして七二五の一割合で補てんされるということかきめられくいるわけなんであります。そうして最悪の場合を考えた場合に議員が十対十をおりおりその地元市町村を代表して発言するということかきめられることかきめられる。経費の負担赤字の場合に経費の分担と議員の定数の割合というものがちやうとアンバランスというふうに思われますがこれはどういう考えでこうした割合をふきめになったかお伺いしたいと思います。

衛生施設課長(吉田耕一君) 組合議会議員の定数につきま

てお答え申し上げたいと思います。実際に数字的な根拠
というものは考えなかつたわけでございます。同じ公共団体
が三つ団体が共同して行うのだというように考え方をこ
の定数を御相談願つたわけでございます。しかしながら、只
今御指摘のような事等も十分考慮したわけでございます
いろいろ金の面、負担割合等、補助金もございしますが、地
方公共団体という同じ村等というようにことから考えま
一、お金、面における負担は二町村と一、市というようにな
ものを半々程度という線が打ち出されたわけでございます
十、場合に五・五という線かを打ち出したわけ、別に数字
的な根拠はいろいろ考えたのですが、紳士的な一、大
きい、小さい、なく、公共団体という考え方を、議員定数を決
めていただくというように、と皆さん、御意見も一致した
しましたので、こうした案を、一、心と向き、つた、ため、ござい

います。

一六番(岡武夫君)先ほど一八番議員がお尋ねしたわけをございませうが、十三条の経費の負担率をございませうが、給水人口並に大口消費量を勘案して決めたという御答弁でございませうが、事業計画書をみましても三市町村別で給水人口とか大口消費量のうち分けがなく、わからないうちでも、もう少し詳しく具体的に御説明願ったいと思います。

一番(吉田勇次郎君)関連しますが事業計画ですが、その中に館山市の負担金の中の千六百四十五万円、この内容は、どういふ性質の金を出すものか合わせて教えていただきたい。

衛生施設課長(吉田耕一君)最初に十三条の支弁方法の割合についてお答え申し上げます。一応計画の給水常住人口を一応

二万人と計画したわけでございます。従いまうとさう
うちあげは館山が一万二千、富浦が五千、三茅が三千、こうした
わりあいによりまして、大体う給水人口を把握したわけ
でございます。それから一日の給水量というものも一応見た
わけでございます。館山が千三百二十トン、富浦が五百三十トン、三
茅が三百トン、こういう線を一応考えてみたわけでございます。
一日の人口による給水量を割合で見ますと館山が〇・五九、富浦
が〇・二四、三茅が〇・〇一五というふうな割合が算出されるわけ
でございます。それを最初全部が村等ということとは困難で
はなしか、というような考えから、三万人、大体八十%を当初
おさえたわけでございます。一万六千人ということも、勘案
いたしますと、大体三千五百五十世帯、いたしまして世帯で計
算してみますと、一世帯四人半程度を基準といたしますと、
大体三千五百五十世帯になったわけでございます。従いま

してこれを常住人口で計算いたしますと館山が二千六百三十戸
 富浦が八百九十戸三芳が五百三十戸というふうにはなりまして
 割合にしますと館山が〇・六富浦が〇・二五三芳が〇・一五というふう
 になつたわけでございます。これをなお繰り入れ金にフッ
 今申上げたものを参考として計算して見たわけでございます
 ます。繰り入れ金のうちこれを一戸一万円を各給水世
 帯が御負担を願ひというふうな考え方で計算をした
 わけでございます。そうしますと三千五百五十世帯
 ですからこれを一万円とみましても三千五百五十万というふ
 うになつたわけでございます。それからこれから世帯計画が五千
 九百万円というふうなことから「世帯」の負担を一万と見
 た計画をいたしまして三千五百五十万を市町村で負
 担したいというふうな考えたわけでございます。これを
 今度の賦分賦割合でございますがどのようなにして配分し

たらということでございますが戸数割で計算をして見たわけでございます。戸数割、世帯割で計算いたしますと館山の〇六、二千三百五十万を見ますと千四百十万円、富浦が〇・二五で五百八十万五千円、三茅が〇・一五でございますと、三百五十二万五千円というふうな割合になるわけでございます。これを繰入金〇年度の割合を見て参りますと大体ここにございます。三年の計画をしまして各年度割合をきめて見たわけでございます。それが初年度〇・一七五、四百十一万三千円それから二年度が〇・三七一でございますと八百七十一万九千円、三年度の四五四でございます。千六十六万八千円という年度正分になるわけでございます。そういうよう関係からこれを市町村ごとの負担を一応総対的に十三条にまとめ見たわけでございますが、そうしますとこうした人口を見ましても館山が一日の給水量が約〇・六というふうな面等から考えまゝ

並通の戸数割合を考えた場合に約六、二五―五位になる
数字が出たわけでございます。館山市の大消費関係

旅館、制永会社、漁業会一般世帯以外に相当ある。

ということを考えての場合にこれを考慮いたしまして。五九

約の六を一〇程度上げまして。〇・七という考え方で大口消費

等調整をいたしまして。〇・七の二、一という割合を一応案を

きめたわけでございます。協議会のオにもこういふ線は

はかりました。このようない線でございます。

このように考えてこの十三条を一応提案した次第でございます。

○一六番(関武夫君)今の市説明、詳しくて、始めうちはわか
ったんですが、あとの方が聞き取れませんで、たが、これは
できれば表にして分けていただければ非常に今後参考
になると思います。

ということがここに示した数字でございまして先ほど申し上げ
ましたように一応五千九百万円繰り入れ金のところにご
ざいます。それだけ市町村費を持ち出すか、或いは、
受益者から多少なり負担を願うということに種々協
議したわけでございますが、金額市町村費も相当困
難だろうということから一万円を各消費世帯からいただ
くといったまゝで、これが三千五百五十万円というふうな
それを除きまして残り二千三百五十万円でございますので、
これを関係の市町村の分布割合によって負担願う
ということにいたしたい。従いましてここにございます数字
は、館山市の場合には市費負担額というふうにお考え
にございいたいただきたい。このように考えます。

○一番(吉田勇治郎君) そうしますと、一戸当たり一万円づつ徴
収してさらに不足財源が二千三百五十万、かように解釈して

いいわけですね。

。三四番(山本昇君)計画書によりますと、給水区域が出てお
りますがいつか、全員協議会や席上でお話がございま
すが、熊山市の区域に那古、船形地区やほかに旧熊野地
区を入れるという話を聞いておったんですが、それはどうな
ったか、この経過を教えてください。それから、水源地
でありますところや増開地区からいろいろ補償の要望
があるということも聞いております。その他や地区からも
具体的に出ていないけれども、何か、そういうった感じがある
やに聞いておりますが、そういうた諸般の諸関係について
どうように処理を置かれておるか、また具体的に出来た
場合にこれに対してどういうふうに処置していくつもりで
あるか。

。衛生施設課長(吉田耕一君)区域の点につきましていろいろ

協議会で検討されたわけでございます。なお今後検討して申請までには検討しなくてはいけないというふうな地域が館野地域の一部とか北条地域、高井というふうな面につきまゝて皆さまより協力、市検討願っておりますわけでございますが、~~現~~現在、段階としてはこの地域は大体希望があるというふうなことでございます。なお残さぬまゝたニ三ヶ部落地域につきまゝては、この後におきまして検討を加えまして申請までに入れるか、いかに決定をしていきたいと考えておりますが、現在よりはつきりした段階としては、この地域を一定考えておるといふようなことで一定今回この地域として掲げた次第でございます。

市長（本間譲君）水源地関係のことにつきまして申上げます。

水源池は増間地区に大体きめられてございますが、増間地区のいろいろ要望があるわけでございますが、これにつきましては、地元の三芳の村長さんに準備会の方で一任しまして、やっておるわけでございます。

一番問題になりまして、増間地区の林道がつぶれるわけですね。その林道の補償ですね。四百万ばかりかかったから、それを返してもらいたいということが一番大きな問題になっておるわけでございます。それについては、地元の三芳の村長さんに折衝しておつたんですが、我々もいつて折衝しなくてはいけないということで、副議長の松本さん、富浦の町長さんと議長さん、三芳の村長と議長といういろいろ折衝したんですが、そういう補償を言わなく出すと、他からそれに付随していろいろ問題が起つてくるということとが考えられまして、林道をつぶす、それが四百万月かかっ

ておるわけです。ところがつぶれた林道のかわりを付けるわけです。かわりを付けるから補償ということはお成り立たない。そうでなくつぶさる二町歩位ですが、林道の付けかえでも買取するということであれば市も出す。こういうことで、話し合いにいったんですが、向こうの方も大勢でござんたやっておるようですが、それについては向こうで話し合いをして見ようというふうなことで、今日いっばいで回答がくるわけです。

単に補償するということになると下流の地域からいろいろな問題があるそうですから、そういうことでなくということになっておるわけでございます。

・三四番(山本昇君)地域の問題ですが、現段階においてここに
ある地域だということになるとさらに今後、もう希望があれば先ほど課長のとおりだった地域も入れるということになり

ますね。従いまして計画書もあつてからそれに伴つて変更しなければならぬ。費用も相当得てくる。それから途中でやるよりも以前にこういう基本的なことを考えておられた方がいいのではないかと思ひますが、その点について、

第二点一応地元としてはそういう要望があるけれども基本的には協調的だ。かようなことですが、市長さん直接折衝した関係でこゝがむずかしい問題でなく、円満に解決する見通しであるか、それから道路の補償費二千八百万円余の予算を計上してあります。市長さんりや説明もこの中に含まれてあるのか、また二千八百万というの相当の額ですが、ほかにものこううことを考へておるのか。

・衛生施設課長（吉田耕一君）区域の問題でござりますが、こゝはごもつとも考えますが、現在三芳を一応三千という

給水人口をおさえておる関係からいたしまして相当無理な地域もあるわけで、旧稻都等ちょっと無理でないかというふうに私も考える。こうした面も当然提出までには考えらるゝと存じます。なお一方、館山市域におきますと、そうした反面、高井、館野の一部地域というものが当然入るのではないということからいたしまして、私も強く要望しているわけでございます。

三芳村を見ましても、私も四部落程度は当然除かなくていくのではないかと、今後協議さるべき問題だと思ひます。村長さんあたりもそうした考え方であらうようでございます。

それから道路補償費でございますが、これは林道が予定されております。ダムや地域に大体四千三百メートル位開設されておるわけで、それが付けかえさるゝ

なければならぬというような關係から道路補償費という
ような買収費も含んだものとして出て出ております。

市長(本間譲君) 増間以外の人ということですか、それはそ
けり増間の方に四百万円というふうな補償金、そういう
ものが出るということになると下の方でも意見があるという
ことらしいです。大体三芳、村長さんがやっておりますから
そういう重大な問題があればおっしゃるわけですがおっしゃ
らないから今のところはいすいすいでもダムを作って
あげる。下流の方はそう大きなことはいえないうではない
ですか。

三四番(山本昇君) 増間地区で四百万円程度、補償という
お話でございまして、それから先ほど課長さん、二千八百
万円余の道路補償費という説明と関係いたしまして
て四百万円の補償というのは道路のかけかえの費用と

いう意味でくわというのか、或いはそうではなくてきつたつたの
 だらう、それに対する補償という意味で四百万円の金
 を要求してゐるのか、この關係をお示し願いたい。さら
 に課長のお話では林道に付けかえりいわれる土地の
 買収費、さらに水没地域や土地の買収も含めてお
 るのか。

・衛生施設課長(吉田耕一君) 最初が四百万円希望額
 点につきまゝで現在既設の林道がございます。

それに投じた経費がその程度出ておるからというよう
 なことでございます。

従いまゝ新しい林道を作つてやるからいいではないかと
 いうことで先般協議されたわけでありましたが、その点につ
 きまゝではむづかしいと納得してゐるようないまだ検討する
 ということではございまゝである程度見通しとしては明か

いよいよでござります。

道路補償費の關係でございますが、こゝは、林道に付ける
かえます用地買収、立木或いは水没いたります關係から
周囲の道路でございます。

三四番（山本昇君）林道を新しく作つてやるということではな
もな費用であるか。従つて陥没地を買収費は入つていな
い。かようにお話のように解釈してよろしうございますか？
いいということでございますね。了解いたします。

ニ五番（萩生田二郎君）ちうと伺います。こゝう解釈して下さい。

第一、問題は給水人口は館山市の場合、五割九分である。工事の負担は七割をやる。たゞ、経費の負担も七割だ。それと赤字の場合も七割負担だ。

第二点は各三千三百五十万です。一千万を工事負担

するわけですが、この見通しはどうであるか。果たして一千万を予定通り出さず得るか。その見通しについて。

第三点、工事費及び予定財源は三億三千六百万円を計上してあるのですが、実際経費は三億二千六百万円であるが、一千万というものはどうして計上したか。

・衛生施設課長（吉田耕一君）第一点、今後に起きる問題について、面も七、二、一、割合でいくらかということですが、現段階として、計画はかように考えております。二点、一千万の見通しでございしますが、これはいろいろ協議会でも検討いただいたんですが、各関係、富浦三芳等におきましても、その程度なら大丈夫だろうという見通しでございしますが、私どももそれにいっそうプレいたしまして、この線でいくように努力したいと思えます。

それから諸経費の問題ですけれども、諸経費は大體
工事費の一割程度を見込む方がいいといふようなこと
で、こういう面を私ども細かい施設関係については未
知でございまして、技師の方にも願ひいて概算を出
していただいた次第でございまして、その他一千万円と
いうことでございしますが、これは事務費関係のもうを
おさへてございしますか。

・二五番(萩生田二郎君)一千万円と申しますのは、予定財源
が三億三千六百万円、工事の小計は三億二千六百万円
でございしますから、そう差額はどうして計上したか、

・衛生施設課長(吉田耕一君)これは大體工事費の中にござ
いますような事務費と交際費別個に上げておきま
すので、工事の部面には上っておりませんので、その差
額といふふうに御解釈願ひします。

・三ッ番(安藤竜吉君)私は数字にこだわらなくていいと思います。この組合を作るために参考資料として与えられたものだと思っております。

要は組合がきょうから発足して議員の構成ができてまいって、かような重要な問題が審議されるのだということ。大体組合を作るためのきょうの議会ではないか。こう考えまして発足させるというものが主眼ではなかろうかとかように考えておりますので、私は原案に賛成してみたいと思っております。

・議長(黒川佐太郎君)おはかりいたします。

本案はこゝにて質疑を打ち切り、討論省略原案通り可決するにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)や異議なしと認めます。よって本案

は、原案通り可決せよと一た。

以上をもって本議会を閉会いたします。

午後〇時十一分 閉会

本日〇会議に付いた事件

一 開会

一 議長報告（出席説明者）

一 会議録署名員決定

一 会期決定

一 市長議案提案説明

一 議案第九十号

出席議員

吉田勇治郎

鈴木正一郎

小柴孝

館石伝藏

田中楳郎

秋山大三郎

田村源治郎

望月照正

辻田実

石井敏博

黒川佐太郎

菊井敏博

志村信作

小沢惠太郎

関武夫

西村真次

藤田好治

保科忠夫

江田徳太郎

君塚喜三

中村省吾

島野茂樹郎

荻生田七郎

鈴木孝

山田教宇

鈴木市藏

安藤亀吉

安天徳順

三沢

節

高橋 丈治

山本

昇

松本 藤太郎

山口

康

昭和三十九年十月二十四日

右会議次第を録しここに署名す。

館山市議会議長

黒川 隆吉

同 署名議員

石井 一山

同

萩原 昌子

一 創山寸譜全

